医学研究センター

松下　祥
（センター長）

2011年の年頭より理事長の主導のもと，米国のMayo Clinicをお手本として本学の発展を図っていこうとする勉強会活動が始まっています．Mayo Clinicは地域医療への貢献からスタートして医学校を有するようになった米国屈指の病院であり，ノーベル賞学者を輩出していることからもわかるように，「scholarlyな環境なくしてprofessionalな診療活動なし」を基本姿勢のひとつとしています．その意味でも，研究活動を発展させようとする姿勢は本学の重要な姿勢の一部であります．

研究活動においては，それぞれの基本学科（旧講座）で行われる活動以外に，複数の基本学科で構成するプロジェクト研究に競争的研究資金を提供する「学内グラント」のシステムが動いています．このような研究環境の整備は2005年に設立された医学研究センターの主導で進められています．医学研究センターは以下のような7部門で構成され，それぞれが異なる視点から研究環境の整備にあたっています．1）研究支援管理部門：外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる，2）知財戦略研究推進部門：知的財産の管理やTLO活動に関わる，3）共同利用施設運営部門：各種共同利用施設の運営に関わる，4）安全管理部門：RI，DNA，薬物，環境，動物，感染など，研究活動における安全管理に関わる，5）フェローシップ部門：大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる，6）研究主任部門：基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる，7）研究評価部門：研究活動の内部評価や外部評価に関わる．

このような活動の中でも，とりわけ知的財産の管理には本学の特色が良く反映されています．21年度の知財活用実績の統計によると，本学は単科系医科大学では全国第1位，私立大学全体では日大と慶應義塾に続いて第3位，国内全体では第17位につけています．わかりやすく言えば，「特許を書いてそれをお金にしているトップ大学のひとつ」ということになりましょうか．

しかし，多くの大学の例に漏れず，本学は研究活動に関与する若手の人材不足に悩んでいます．2002年に創設されたゲノム医学研究センターは，このような環境の中にあって大健闘している本学のホープではありますが，医学部本体の研究者層の厚みを増やす必要性を叫ぶ声は年々大きくなるばかりです．社会人大学院の充実と実質化はこのような状況を打破するために少しづつ貢献してくれています．病院を含む全学的な新たな取り組みとして，専門医資格と博士号取得を同時にめざす臨床研修プログラムの充実，MD，non-MDへの大学院奨学金システムの充実，などを掲げ，この問題を解決しようと努力しているところであります．

© 2012 The Medical Society of Saitama Medical University